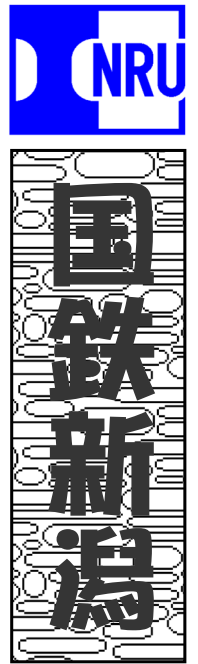


# ダンプ・トラック パレード

四月二十日、新潟市  
『近鉄物流』でダンプ・  
トラックパレードの出  
発式が開催されました。  
十二台が準  
備され、そ  
れぞれ車体  
に要求が書  
かれた横断  
幕をはりま  
した。県労  
連・建交労・  
国労など五  
十三名が結  
集しました



NO. 633  
発行  
2008・4月30日  
国鉄労働組合  
新潟地方本部  
発行責任者  
守橋久仁雄  
編集責任者  
教宣部

## 働く人達のかで 大きな運動を

九時に集合しパレードの準備を  
行い、出発式が十時三十分頃から開  
催されました。

開会あいさつでは、県労連山崎議  
長から『08ダンプ・トラックパレ  
ードの出発式は天候に恵まれ晴れ渡り  
ました。人間らしく働くことの出来  
る職場をつくるため闘っている。0  
8春闘を勝利しよう。働く人達の力  
で大きな運動にしていこう』とあり  
ました。

その後、建交労の杉崎委員長の主



### 各団体あいさつ

#### ★国労守橋委員長

名古屋高裁で自衛隊の活動に対して憲法違反の判決が出た。がんばれば要求が通る。司法の場でもそうなっている。粘り強く頑張れば展望が開ける。ダンプ・トラックにいろいろな課題を書いた横断幕をはり出して新潟市民にアピールしていく。

#### ★建交労杉崎委員長

いろいろな事件が発生している。暫定税率が問題になっている。大変な状況になっているが廃止反対の集會が開催されている。我々の要求するところに税金を使って欲しい。我々が、がんばれば必ず変わっていく。国鉄闘争についても同じだ。

#### ★県労連北村事務局長

ワーキングプアの問題について、男性でも結婚すると寿退社となる企業がある。賃金が上げられないため、そんな状況になっている。ワーキングプアを無くす運動を強めていこう。医療制度の改悪など厳しい実態、状況にある。暮らしていけない人をつくるなど、訴えていく。ワーキングプアの運動と一緒に春闘を闘っていこう。



トラックがつぎつぎに出発していきました。  
パレードは新潟市内中心部を走り  
さまざまな要求や課題など新潟市民



に訴えていきました。

## ぜひ国労へ加入を！

## 入社おめでとう ございます





# 朝鮮労働運動史 後編 李寿甲氏

## 三百名が銃殺

一九四六年八月十五日に解放記念日行事が行われた。解放一周年に多くの市民、労働者が集まり闘いとなった。独立国家建設を要求する闘いとなった。全国的に米国は、参加を禁止する指示を出した。

光州（和順）の労働者は集会に参加した。和順の炭鉱労働者は全評労働者で独立を訴えていた。そのため米国は許さなかった。米国軍政は空から船から銃撃し三百名が虐殺された。数百名が負傷した。

これによって、朝鮮人民は怒った。全評への弾圧・鉄道労働者への攻撃が大きくなっていった。労働条件の改善が強行され、月給制から日給制になった。

## 立って反撃することを決議 七千名がストへ

一九四六年九月、鉄道労働者が立って反撃することを決議、七千名がストを決定した。市民に訴え、糾弾、街頭行動へ展開していった。全評が全労働者へストを指令しゼネストが

決行された。全評は米国へ、労働者の基本的権利を訴え、米を市民ひとり三合、労働者には四合を求めた。座って死ぬのではなく立って闘っていこうと訴えた。

## 一七〇〇名が連行

ストライキに対し多くの労働者が虐殺された。千七百名が強制連行された。弾圧が激しくなればなるほど労働者の闘いは強くなっていった。

正当なストに対して、弾圧する米国は直ちに朝鮮から出て行けと糾弾集会で演説した。演説者に対し米国の指示によって殺された。結集した市民は委縮することなく代わりの労働者が演説を行った。次々に登壇した。つづけて五名が殺された。

## 内部から 組織的に破壊し闘う

解雇労働者は武装闘争へ解雇されなかった労働者は、大韓労組に加入し内部から組織的に破壊し闘ってきただ。大韓労組に加入しなければ仕事ができない状況だった。全評はつぶされたというふうに見えたが、そうではなく全評の闘いは継続していた。全評の民主労働運動が継続し南朝鮮労働者が結成した。全評の精神が継承された民主労組の結成。



## 幹部が変化・変質 労使協調

韓国の労働組合の幹部も変化、変質、労使協調となってきている。資本家が労働組合内部に浸透し、工作を図ってきている。この状況では労働運動といえない。資本家の利益を代弁している。

非正規労働者が八七〇万人で全労働者の六〇％に達し不安になっていく。変質している幹部に対し社会的に許せない。階級闘争戦線から追放しなければならない。そして、現場の非正規労働者の闘いが労働運動の中心にならなければならない。現在は一大危機になっている。現場から闘いを発展し追い込んでいく。



## 日本の労働者との連帯を

労働組合が御用化していくことに責任があると感じている。民主労組幹部を糾弾し全評の労働運動を訴えていく。どんな困難があろうとも闘っていく。それが使命だと考える。それには日本の労働者との連帯が必要だ。

# 李寿甲氏 イ ス ッ カ フ



# セクト・派閥など矛盾を克服し 労働者階級の連帯を

韓国労働者に対して、日本の労働者から多くの忠告を伝えて欲しい。日本がたどった道、それに対してどう闘ってきたか伝えて欲しい。20年前、反核運動から日本とのつながり、連帯がはじまった。今回の連帯行動は多くの労働組合と交流した。

資本家は国際化し国際的に連帯している。国、場所は違っていても帝国主義から圧迫されている。連帯・共同行動をしていく。同じ労働者階級として連帯・運動を進めていく。何をなすべきか、闘う労働者と闘う仲間と確認したい。

連帯強化について、それぞれ運動・運動的認識を克服していく。韓国の左派の運動は、いくつかの労組があり分裂している。日本にもさまざまに分裂している。セクト・派閥主義・自由主義を克服していく。労働者階級に派閥があってはならない。労働組合の中に矛盾があってはならない。労働組合の中に矛盾があったらそれを克服していくこと。資本家階級をつぶしていくことができない。

